

丸利根アベックスのSDGsの考え方と取り組み

解体業の活動は多岐にわたっており、SDGsの17の目標とも深い関わりをもっています。丸利根アベックスでは創業以来、「トンボが住める環境を取り戻そう、守ろう」を合言葉に環境に優しい解体工事に取り組んでまいりました。また、地域の皆様との交流をはじめ、地域振興活動にも積極的に参加しています。そして企業の継続的な成長には、地域全体の持続可能な発展が必要不可欠であると考えています。そこで、丸利根アベックスの具体的な取り組みとして、地元の三鷹警察と「大規模災害時における建設資機材等の提供」をする協定を締結し、SDGsの17の目標のうち「11＝住み続けられるまちづくり」の一助になればと思い取り組んでいます。また、「1＝貧困をなくそう」・「4＝質の高い教育をみんなに」の取り組みとして、アジア最貧国のバングラデシュへ学校を2003年に設立し、無償で誰でも教育を受けられる環境をつくり、毎月継続的にその学校へ寄付する取り組みをしています。これからも丸利根アベックスでは解体業のトップランナーとして、地元のFC東京を応援しながら、SDGsの達成（ゴール）に貢献していきたいと考えています。



MARUTONE

<https://www.marutone.co.jp/sdgs2030.html>

羽生直剛CNがインタビュー！

Jリーグ特任理事 夫馬賢治氏に聞く「SDGsってなんだろう？」

未来に向けて企業やJリーグが取り組むべき課題とは？

貧困、差別、紛争、気候変動、世界を襲った新型コロナウイルスのパンデミックなど、私たちの社会は様々な問題に直面しています。世界中が持続可能な社会の実現に向かって協力するなかで、私たち一人ひとりが社会のためにできることは？ 羽生直剛クラブビゲーターがJリーグ特任理事・夫馬賢治氏に話を聞きました。



羽生 最近、「SDGs」という言葉をよく耳にしますが、どのような意味でしょうか？
夫馬 「SDGs(Sustainable Development Goals)」は日本語に訳すと「持続可能な開発目標」という意味で、2015年に国連サミットで採択されました。環境、経済、貧困など17個の課題に対して、政府、市民、企業などが協力して解決しようという巨大なキャンペーンのようなものです。なかでも、強力な存在である企業が積極的に役割を果たして、新たな事業を生み出しているという流れになっています

羽生 その世界の流れのなかで、Jリーグも役割を果たさなければならぬ。夫馬氏が特任理事に就任して最初、Jリーグの方に今の企業の動きについて話をさせていただきました。多くの企業が社会に向き合っている今、例えばクラブのスポンサーをしている企業の株主向けの報告書の中では、「Jリーグ、クラブともにこういうことに取り組んでいます」という話はなかなか出てこない。「これ、悔しいではないですか？」と。

羽生 私がビジネススタッフの営業に同行している時も、クラブのスポンサーになることのメリットがあまり理解されていない印象を受けました。なんとなく地元から応援するというか、企業にも大いにサッカーやスポーツが持つ力を利用して利益を生み出しているというイメージがあるか。これはきいていない現状があります。海外のクラブで良い事例はありますか？
夫馬 本場にたくさん事例があります。スタジアムには多くのファン・サポーターの方が集まり、ボランティアの方がいたり、その効果が地域も盛り上がり。一方で、スタジアムの運営面では、ものすごい量のエネルギーを使っていることも事実です。イングランドでは各企業が年間から環境問題への責任を問われるなか、サッカークラブが先駆けて、スタジアムの電力はすべて再生可能エネルギーでまかっています」と発信している。すると、企

業自身ももちろん環境問題に取り組んでいるけれど、自分たちが応援しているサッカークラブもそれに取り組んでいないだと発信することができ、企業としてもクラブとしても良い効果を生むことができます。
羽生 今、Jリーグでは「Jリーグをつかさどる」というキーワードで様々な取り組みをしています。私たち元選手からすると、Jリーグやアスリートは本当にみなさんが思っているほどの価値があるのだろうかと思うことがあります。私たちがどんなことで社会に貢献できているのでしょうか？
夫馬 たくさんあります。今、Jリーグには57クラブがありますが、地方の地域には元気がありません。最近、横のコミュニケーションが薄れてきているんです。例えば、商店街と市役所がお互いに話をしたら面白いことがあるのではと連携しあっている。でも、スタジアムで試合があれば、行政、スポンサー、ファン・サポーター、飲食店など、関わっている人がたくさん集まります。サッカーの試合がなければ起きないコミュニケーションがスタジアムで生まれる。初めて会う人たちのネットワークの場になっているんです。また、行政の人が発信してもなかなか世間には伝わらないと悩んでいることも、選手が発信すればメディアが取り上げ、あっという間に広がる。クラブが地元でイベントをやる時に地域のみなさんが積極的に関わろうとしていただけるのは、クラブを起点にしてみんなに発信できるという思いがあるか。これはスポーツ界ならではの価値だと思います。

羽生 Jリーグのクラブは今、何をしなければならぬのでしょうか？
夫馬 地域が抱える課題は山ほどあります。少子化で住民が減っていき、高齢化も進んでいます。何かをやらうという時に、ひとつだけ明確に言えることは、一人ひとり、行政だけ、ひとつの企業だけでできることはものすごく限られているということ。そして誰に聞いても、「自分たちだけではできない。みんなが一緒にやるのであれば自分たちもやる」と言います。みんなが動け

る。初めて会う人たちのネットワークの場になっているんです。また、行政の人が発信してもなかなか世間には伝わらないと悩んでいることも、選手が発信すればメディアが取り上げ、あっという間に広がる。クラブが地元でイベントをやる時に地域のみなさんが積極的に関わろうとしていただけるのは、クラブを起点にしてみんなに発信できるという思いがあるか。これはスポーツ界ならではの価値だと思います。

みんなで知ろう！楽しもう！

『NO PLANET, NO TOKYO』Tシャツプレゼント！
FC東京のチームカラーである青と赤、地球を覆う海のイメージを取り入れてデザインしました。ぜひ着用してチームの後押しをお願いします！
【実施時間】11月20日(予定)～前半終了まで 【実施場所】メイン3コート、北2コート、バック2コート

子どもたちの「体力」「スポーツに親しむ機会」の向上に焦点をあてて制作した「あおあかドリル(運動ドリル)」の体験イベントを実施！
【実施時間】11月20～21日12:15～ 【実施場所】青赤パーク(アジアン広場)
※各回定員30名。要予約を配布します。

キックターゲット
おなじみのキックターゲットを体験しながら、『NO PLANET, NO TOKYO』ご賛同企業のSDGsへの取り組みを知ることができます！
【実施時間】11:00～キックオフ 【実施場所】青赤パーク(アジアン広場)

CSR・環境マネジメント・SDGs

《社会的責任を果たす企業としての活動》

当社は1916年ゴム製品の商社として創業し、以来お客さまの《最適》を実現するために、世界的なネットワークを活用し、現在は技術開発型商社を目指して製品・サービス・ソリューションを提供しています。

「法令、社会規範を守り、公正透明な企業活動に努め、社会に信頼される企業となる」を基本理念のひとつに掲げ、CSR推進室を設け、理念を遂行するための活動をしています。

●安全・責任 環境を配慮した新商品開発
環境負荷低減のため、地球の環境保全に配慮した商品開発に取り組んでいます。また、資源の有効活用や省資源化を図っています。一例として、仕入れ先と一体になり、地球環境負荷の少ない商品を調達する「グリーン調達」を推進しています。次世代が安全に暮らせるための地球環境の保全など、当社は多方面にわたって企業としての社会的責任を果たしています。

●環境方針
1.環境保護や環境負荷低減のために、環境マネジメントシステムを構築・運用・維持し継続的な改善を図ります。
2.当社の運営にとって重要と思われる下記の活動については改善・維持目標を定めて達成に努めることによって経営効率化と環境保護及び汚染の予防を図ります。

- ① 新規商品の継続的開発
 - ② 営業活動を阻害している要因の改善(債権期間の短縮、不具合品の低減)
 - ③ 物流関連業務の改善
 - ④ 省エネ・省資源の推進
 - ⑤ グリーン調達の推進
 - ⑥ 社内情報のIT化と共有化
 - ⑦ 交通事故撲滅の推進
- 3.環境法規、及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
4.全社員に対して、環境方針の周知徹底と意識の向上を図ります。

●SDGs
1.SDGs推進委員会を発足させています。
2.自然エネルギーを購入しています。

<https://www.nishiyama.co.jp/>



ばみんながやってくれるけど、みんなが動かない限りは誰もやらない。だからこそ、「では、みんなでやりませんか?」と言える存在が必要なんです。今、地域では少子高齢化やエネルギー・ゴミといった環境問題が多く取り上げられていますが、行政や企業が発信してもなかなか市民まで届かない。もっと多くの人に理解していただかないといけないという時に、その役割を果たせるのはクラブしかないんです。

羽生 各クラブがもっと発信力を高めていけば、「みんながやっているんだ」という意識になり、さらにJリーグが社会に貢献できるかもしれません。
夫馬 実際に私が関わり、6月末に環境省とJリーグの連携協定を締結しました。そこで当時の小泉進次郎環境大臣と村井満之助アスリートのお二人で調印式を行いました。連携協定を締結して発表という結果だけで、これまで全く関わりがなかった行政の別の部署の担当者や企業との関係があるんなクラブで生まれました。今まで存在しなかったコミュニケーションが各地でどんどん生まれたのです。このような取り組みを続けることで、今まであり得なかったことが起きてくるでしょう。

羽生 ファン・サポーターはどのように関わっていくのが良いのでしょうか？今後、注目すべき点などがあれば教えてください。
夫馬 FC東京がこれから何をやるようにしているのか、どんな未来を作りたいのか、ファン・サポーターのほうからも興味を持っていただきたいですね。試合の勝ち負けはもちろん大事ですが、自分たちが暮らす街や応援するクラブがずっと元気な状態にいたいことも大切です。クラブはこの街を良くするための取り組みをしています。クラブが発信していることが、一人ひとりの仕事や生活に影響し、街全体を動かすことにつながっている。試合の時だけでなく、家に帰ったあと、仕事に行っている時も、「そういえばクラブがこういうことを言っていたな」と思い出し、「自分ができることをやってみよう」と思っていたら、私も、FC東京の今後に大いに期待しています。

羽生 FC東京も、もっと発信して、表現していきたいと思いませんか。
夫馬 FC東京がこれから何をやるようにしているのか、どんな未来を作りたいのか、ファン・サポーターのほうからも興味を持っていただきたいですね。試合の勝ち負けはもちろん大事ですが、自分たちが暮らす街や応援するクラブがずっと元気な状態にいたいことも大切です。クラブはこの街を良くするための取り組みをしています。クラブが発信していることが、一人ひとりの仕事や生活に影響し、街全体を動かすことにつながっている。試合の時だけでなく、家に帰ったあと、仕事に行っている時も、「そういえばクラブがこういうことを言っていたな」と思い出し、「自分ができることをやってみよう」と思っていたら、私も、FC東京の今後に大いに期待しています。

PROFILE 夫馬 賢治(ふま・けんじ)
株式会社ニシヤマ代表取締役CEO。サステナビリティ経営・ESG投資アドバイザー。会社を2013年に創業し職機、東証一部市場企業と大手金融機関をクライアントに持つ。2021年2月よりJリーグ特任理事に就任。

NO PLANET, NO TOKYO みんなが認め合い活躍できる社会へ 木村敬一 対談 石川直宏

今夏、盛り上がりを見せた東京2020パラリンピック競技大会。競泳100mバタフライで金メダル、100m平泳ぎで銀メダルを獲得した木村敬一選手の活躍は、多くの人々の胸を熱くさせました。パラスポーツの未来やパラアスリートから見える社会について、そして木村選手の素顔について、FC東京クラブコミュニケーターとして様々な社会連携活動に取り組む石川直宏CCが迫ります。

石川 東京2020大会ではパラリンピックがあらためて注目されました。この大会の意義は？
木村 まずひとつは、障がいのある人がすぐスポーツライต์を浴びる瞬間だったと思いますし、そこに大きな意義があったと思います。同じ社会に様々な障がいがある人がいてスポーツを楽しんでいるということがわかってもらえて、それが今後見てくれた人の世界を広げることになれば嬉しいですね。もうひとつは、パラスポーツがひとつのスポーツとしての面白さを発信することができたのも大きな意義だと思っ、それは僕たち日本人が競技の上で頑張ってきたハイパフォーマンスを出せたことの証なのかなと。スポーツのレベルをひとつ上げられた瞬間だったのかなと思います。

石川 パラリンピックを終えて心境の変化はありましたか？
木村 閉幕から日にちが経ち、ずいぶん昔のことのような気がします。レースが終わった直後は「水泳をきて良かったな」と思いましたし、5年間金メダルに向けて頑張ってきたので達成できて本当に良かったという気持ちでいっぱいでした。それをどう今後活かしていけるかを考えられるようになったというのが、今の心境の変化のかなと思っています。

石川 今回のレースはたくさんの方が応援してくださいました。大会の開催自体が不透明な状況だったと思いますが、大会前はどんな気持ちでしたか？
木村 今年の初め、大会が開催出来ないんじゃないかと思つた時は一番辛かったですね。色々なニュースが聞こえてくる中でも、開催されるに信じて僕たちはトレーニングを続けるしかありませんでした。大会に向けて一番強い気持ちを持っていたのは自分たち選手。自分たちが開催を信じないといけないし、信じるどころかはいしていいんじゃないかなと。やれるかどうかかわからない。厳しい夢を持っている自分たち選手。自分たちが開催を信じないといけないし、信じるどころかはいしていいんじゃないかなと。やれるかどうかかわからない。厳しい夢を持っている自分たち選手。自分たちが開催を信じないといけないし、信じるどころかはいしていいんじゃないかなと。やれるかどうかかわからない。厳しい夢を持っている自分たち選手。



な変化もあれと思っています。
石川 今大会は無観客開催でした。僕もたくさんの方からエネルギーもらってプレーしてきたのですが、無観客は経験がないんです。木村選手のパフォーマンスに与えた影響にはどのようなものがありましたか？
木村 これまでのパラリンピックと比べれば、もちろん寂しさはありました。やはりパラリンピックは僕らにとって特別ですし、いちばん声援を逃してもらえない大会なのだとこれまでの三大大会で実感していました。大会入場前から「静寂の中でのことになるかもしれないけれど、これは自分にとって最高の舞台なんだ」ということを言い聞かせ自分の気持ちを高めていかなければいけないし、寂しさは正直あったと思います。その中でメダルを取れたレースではしっかりと入場前からモチベーションを上げて臨むことができました。コロナ禍真只中の開催だったわけですから、無観客開催は仕方なかったと思います。多くの関係者の方が、きつものすごく努力してくださって開催にこぎつけたのだと思いますし、僕たち選手はそのことに何よりも感謝しています。そんな特別な舞台に立たせてもらえて、すごく幸せでした。

石川 大会の開催自体が不透明な状況だったと思いますが、大会前はどんな気持ちでしたか？
木村 もともと生まれつき目に病気があったのですが、2歳の時に両目とも光を完全に失ってしまいました。水泳と最初に出会ったのは10歳の時です。目は見えなくても体を動かすのはとても好きで活発な子どもだったのですが、目が見えないから転んだり壁にぶつかったり。怪我が多かったんです。安全に思い切り動ける環境をと、母親が考えてスイミングスクールに入れてくれたのが始まりでした。色々な泳ぎ方を覚えて、次に距離や記録を追い求めるようになって、パラリンピックそしてメダルにたどり着きました。目標をひたすら追い求めて続けてきた結果として、今があると思います。

石川 木村選手の姿を見て、きっと子どもたちも色々なことを感じてくれると思います。障がいのある方に関わらず、みんなが生きやすい社会に向けて、僕たちにはどんなことができるでしょうか？

石川 日本選手団全体でもメダルの数は多かったのですが、日本での開催についてはどう思っていましたか？
木村 自国で開催するパラリンピックですから、まず僕たちがホスト国として活躍しない大会が盛り上がり過ぎていけない、コロナ禍という特殊状況でスタートしているわけだから僕たちの力で盛り上げていかなければいけないと思っていました。幸いにも水泳チームはメダルの数も前回より大幅に増やすことができましたし、盛り上げに寄与できたのかなと思っています。

石川 転換点となった今回のパラリンピックの成功を一過性に終わらせず、パラスポーツの今後につなげていくにはどうしたら良いのでしょうか？
木村 今回の大会はすごく注目をしてもらえました。しかしこのま何もなければ、しばらくは置いてしまおうのではないかと懸念もあります。僕たちができることは、スポーツとしての面白さを伝えるために選手たちが強くあり続ける必要があるということです。そして選手たちが自ら発信できなければならないと思います。お互いに理解し合せて、補い合える社会が実現すればいいのかなと思います。

石川 お互いの違いを認め合うことは、スポーツ選手がお互いをリスペクトすることも通じると思います。僕自身もブラインドサッカーに昔から関わりがなくて、実際に体験したり、交流が続いています。ブラインドサッカーを含め7つの障がい者サッカーがあるので、FC東京はもちろん、他のJクラブやフットサルクラブ、サッカーファミリー全体で普及していく機会を増やしていきたいですね。そしてパラスポーツを含むスポーツ全体にあらゆる人々がアクセスできるようにして、子どもたちの未来を広げていきたいと思っています。

PROFILE 木村 敬一(きむら・けいいち)
東京ガス株式会社所属。2歳の時に病気のため視力を失う。小学4年生から水泳を始め、専攻した筑波大附属高等学校(第1期筑波大学附属筑波特別実業学校)で水泳部で活躍し、東京電力2つ目の選手。ロンドン2012パラリンピックで銀、銅1つずつのメダルを獲得。リオ2016大会で銀、銅2つずつ日本人最多の4つのメダルを奪取。2018年から専攻アメリカに拠点を移し、4度目の出場となる東京2020大会では、200m個人メドレー5位入賞、100m平泳ぎで金メダル、100mバタフライでは自身初となる銀色のメダルを獲得した。



木村 大きなテーマだと思うのですが、生活全体にゆとりを持つことが大事なのかなと思います。日々色々な出来事に振り回される世の中ですが、動揺せず受け入れていく。自分の中にゆとりがあれば自然と人の心にも興味が出てくるでしょうし、人に対しても優しくなれると思います。「共生社会」というと難しく聞こえますが、色々な人がいるのが当たり前で、その違いは変えようのないことです。お互いに理解し合せて、補い合える社会が実現すればいいのかなと思います。

石川 お互いの違いを認め合うことは、スポーツ選手がお互いをリスペクトすることも通じると思います。僕自身もブラインドサッカーに昔から関わりがなくて、実際に体験したり、交流が続いています。ブラインドサッカーを含め7つの障がい者サッカーがあるので、FC東京はもちろん、他のJクラブやフットサルクラブ、サッカーファミリー全体で普及していく機会を増やしていきたいですね。そしてパラスポーツを含むスポーツ全体にあらゆる人々がアクセスできるようにして、子どもたちの未来を広げていきたいと思っています。

PROFILE 木村 敬一(きむら・けいいち)
東京ガス株式会社所属。2歳の時に病気のため視力を失う。小学4年生から水泳を始め、専攻した筑波大附属高等学校(第1期筑波大学附属筑波特別実業学校)で水泳部で活躍し、東京電力2つ目の選手。ロンドン2012パラリンピックで銀、銅1つずつのメダルを獲得。リオ2016大会で銀、銅2つずつ日本人最多の4つのメダルを奪取。2018年から専攻アメリカに拠点を移し、4度目の出場となる東京2020大会では、200m個人メドレー5位入賞、100m平泳ぎで金メダル、100mバタフライでは自身初となる銀色のメダルを獲得した。

NO PLANET, NO TOKYO

安心で平和な地球環境だからこそサッカーをする、楽しむことができます。サッカーが楽しめる環境は当たり前ではありません。その環境を持続するためには、そこに住む人々がともに取り組んでいく必要があります。

FC東京は、社会や地域の課題解決のためにクラブとして社会連携活動を推進するだけでなく、様々な活動に取り組んでいる企業や団体を知っていただくことを通じて、多くの人に安心で平和な地球環境の維持に関心を持っていただきたいと思います。

ファン・サポーターや地域の方々、クラブスポンサーのみならず一体となり、FC東京に関わる全ての人々が少しでも明るく元気になれるように、そして安心してサッカーを楽しむ日常がこの先も持続するようにと願いを込めて、本イベントを企画いたしました。

※各イベントの詳細はFC東京オフィシャルホームページをご確認ください。

カーボンニュートラルLNGの普及・拡大

天然ガスは、化石燃料の中では最もCO2排出量が少ないクリーンなエネルギーです。東京ガスグループではこれまで、天然ガスを原料とする都市ガスへの燃料転換や、天然ガスの高度利用を進めることでCO2排出削減を実現してきました。さらに2019年度からは、カーボンニュートラルLNG(以下、CNL)を日本で初めてシェルグループから受け入れ、CNLを活用したカーボンニュートラル都市ガスの供給を開始しています。

CNLは、LNG(液化天然ガス)の採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、新興国等における環境保全プロジェクトにより創出されたCO2クレジットで相殺(カーボン・オフセット)したLNGです。燃焼させても地球規模ではCO2等が発生していないとみなされるとともに、環境保全プロジェクトは現地での雇用の創出や生物多様性保全等にも貢献します。

東京ガスは、カーボンオフセットの活用をはじめとした、新たなソリューションの提供を通じて、お客さまと共に「CO2ネット・ゼロ」に挑戦し、社会課題の解決に取り組んでまいります。

リユーザー全体で排出される温室効果ガスも、森林保全等で吸収されるCO2クレジットで相殺することにより、地球規模では排出量がゼロになります。



<https://carbon-neutral-lng.jp/>



子どもたちに誇れる2030へ、そしてその先へ。

シミズグループは、建設事業の枠を超えた不断の自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じて、時代を先取りする価値を創造(スマートイノベーション)し、人々が豊かさと幸福を実感できる、持続可能な未来社会の実現に貢献を行い、イノベーションを通じた価値の提供により、SDGsの目標達成にも貢献します。

地震や巨大台風、豪雨などの自然災害から生活と事業を守ることが、建設業の使命であると考え、強靱な建物、インフラの構築を通じて、「安全・安心なレジリエントな社会の実現」に貢献します。

ユニバーサルデザインやWell-Beingを意識した施設・まちづくりを通じて、誰もが「健康・快適に暮らせるインクルーシブな社会の実現」に貢献します。

地球温暖化や森林破壊、海洋汚染など地球環境問題が深刻化するなか、事業活動におけるCO2排出量削減はもとより、省エネ・創エネ技術によるZEB(ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング)の普及、自然環境が持つ潜在能力・機能を活用したグリーンインフラの推進、再生可能エネルギーへの取り組みなどを行い、「地球環境に配慮したサステナブルな社会の実現」に貢献します。

創業以来大切にしてきた「誠実なものづくり」に対する高い志と、時代を先取りしてチャレンジしていく「進取の精神」を守り継ぎながら、お客さま・社会の期待を超える価値を提供してまいります。



<https://www.shimz.co.jp/company/csr/sdgs/>



脱炭素社会の実現に寄与する 地域密着型バイオマス発電事業の創出

三井物産は温室効果ガス(GHG)排出量削減を目指し、再生可能エネルギー(以下、再エネ)事業の取り組みを進めています。北海道では木質バイオマス発電による地域分散型電源に取り組み、2017年苫小牧市、2019年下川町、2021年当別町でそれぞれ営業運転を開始しました。電力消費者の近くに小規模な発電施設を分散配置することで、送電時のエネルギーロスを削減でき、GHG排出量削減にもつながる事業です。北海道には日本の森林面積の20%を超える豊かな森林資源があり、燃料となる間伐材等未利用木材の安定供給が見込めます。太陽光や風力と異なり、気象条件によらず24時間365日ほぼ一定の出力で安定稼働するバイオマス発電で、再エネの主力電源化を推進できると考えています。

当社は全国74か所に約44,000ヘクタールの「三井物産の森」を保有しており、うち約36,000ヘクタールが北海道にあります。社有林の活用とともに、間伐材等未利用木材の需要創出、林業従事者・運材業者の雇用創出と木材利用の効率化等、林業活性化にも貢献してまいります。



(下川町のバイオマス発電所)

https://www.mitsui.com/jp/ja/sustainability/sustainabilityreport/2020/pdf/ja_sustainability_2020-08.pdf



きらぼし銀行のスポーツ振興に向けた取り組みについて

きらぼし銀行は、SDGsの一環として持続可能な社会へ寄与することを目的に、スポーツ振興・アスリート支援に力を入れています。その一つとしてアスリートの価値向上やアスリートによる社会課題解決支援を目的に設立された一般社団法人APPOLO PROJECTに協賛しています。本協賛を機に、今年3月にはお客さま向けに「アスリートの社会課題解決への可能性」をテーマとしたトップアスリートによるパネルディスカッションを行い、FC東京クラブコミュニケーターの石川直宏氏にも登壇いただきました。

また、生活環境を安定させながら競技活動に集中したいと考える現役トップアスリートをサポートすべく、将来の活躍を目指す2名のトップアスリート(陸上競技・棒高跳の澤 慎吾選手、スケート競技・ショートトラックの岩佐 暁選手)を採用しています。今後もスポーツの力、アスリートの力を信じ、スポーツ振興・アスリート支援に関わるさまざまな取り組みを通じて、持続可能な社会の実現と社会との共通価値の創造に努めてまいります。



(過去に実施したイベントのチラシ)

<https://www.kiraboshibank.co.jp/about/movie/>



障がい者スポーツ応援プロジェクト DREAM AS ONE.

三菱商事の企業文化には、社是である三綱領を掲げると、真に豊かな社会の実現を目指して、地域社会や国際社会とともに発展していこうという思いが深く根を下ろしており、より豊かな社会づくりに貢献すべく自ら考え実践する社会貢献活動を推進しています。活動は「インクルーシブ社会の実現」「次世代の育成・自立」「環境の保全」の3つの軸で展開しており、中でも「インクルーシブ社会の実現」に該当する障がい者スポーツに対する支援は、長年に亘り取り組んできたものをさらに充実させ「DREAM AS ONE.」プロジェクトとして2014年に発足させました。

「DREAM AS ONE.」では「障がい者スポーツの裾野を広げる」、「障がい者スポーツに対する理解度・認知度を高める」ことを目的に、競技をする側見る側双方に働きかけることで誰もがスポーツを楽しむことの出来る社会を目指し活動しています。「裾野を広げる」取組みとしては障がいのある子どもたちへのスポーツ教室開催や日本障がい者サッカー連盟・脳性麻痺サッカーチームへの支援の実施、「理解度・認知度を高める」活動では当社所属のパラアスリートと共に障がい者スポーツ体験会やトークイベントを行うなど、多くの方へ障がい者スポーツの魅力を発信しています。三菱商事はこれからも障がい者スポーツ支援を通じてインクルーシブ社会の実現を目指してまいります。



(障がい児向けスポーツ教室の様子)



(脳性麻痺サッカーチームとのイベント)

<https://www.mitsubishicorp.com/jp/ja/dreamasone/>



青い海から人々の毎日を支え、豊かな未来をひらくことを理念とし、海運を中心に事業を展開しています。当社は本年6月に2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「環境ビジョン2.1」を発表しました。今後も社会が抱える課題に率先して取り組みます。



人々が豊かで快適に生活する社会を目指し事業展開する私たちにとって、全ての人が健康な世界を目標にすることは当然の使命です。インフラ整備・運営を効果的に進め2030年に向けSDGsを達成するため、世界最高の技術をもって社会に貢献します。



EURO SPORTS(ユーロスポーツ)では、Jリーグ観戦招待や、幼稚園・保育園でのサッカー体験教室の開催等の活動を通し、サッカーの未来と子どもたちの未来に貢献するため、サッカーとふれあい、体験する機会を提供しています。



金太郎ホームは、良い企業市民を目指し、豊かな会社づくりとその持続的な発展や人材育成のための活動を行っています。地域のみならず当社社員とともに積極的に社内活動や社会貢献活動を進めています。



海運業を軸に総合物流事業を展開する日本郵船グループでは、全世界の船員の8割を占めるフィリピン人が抱える金融インフラ問題を解決するため、船員向け電子通貨プラットフォーム「MarCoPay」を設立。船員と家族のより豊かな生活への貢献を目指しています。



よろこびがたぐ世界へ キリングループは、ポジティブインパクトで環境保全に貢献し、社会全体にサステナビリティをもたらすことを目指します。



J:COMでは地域に根差した事業者として、子どもたちを支援するチャリティーイベントや下校見守り活動の実施など、街を元気にする活動を行っています。今後も安全・安心で魅力的な地域づくりに貢献できるよう取り組んでまいります。

大矢運送は、SDGsに取り組んでいます!!

当社は、創業以来最新鋭の車両・重機を揃え日本のインフラ設備を支えるのと同時に、環境負担の少ない機種を導入し続けてまいりました。

風力発電やバイオマス発電に代表される再生可能エネルギー発電の施設建設・メンテナンス作業では豊富な経験値を元に計画から参画し、低コスト・省スペースでかつ安全第一を絶対の物として循環型社会を構築する活動に協力しています。 本社屋には太陽光発電システムを導入し、年間約16,887kg-co2のCO2削減量を見込んでいます。また毎週社屋周辺の地域清掃活動や、毎年12月から社屋をLEDライトによるイルミネーションでライトアップし、環境保全・環境美化に貢献しています。

FC東京のクラブスポンサーをはじめ、地元のイベント活動への参加、自社ヤードを使用しているBBQなどの社内イベントを積極的に行い、普段お世話になっている地域への感謝の気持ちとして地域振興に貢献し、社内では社員やそのご家族みなさまにとってゆとりと豊かさを実感できる生活の実現を目指しています。



<http://www.human-ohya.co.jp/sdgs.html>



"A Brighter World Tomorrow(より明るい世界の未来)"をテーマに持続可能なより良い社会の実現を目指し、SDGsの目標達成と将来を見据え、事業を通じて社会の課題解決に取り組んでいます。



FC東京でんきを通じて、FC東京への支援金・支援物資の提供や、FC東京のホームタウン活動を支援し、地域活性を推進しています。また、太陽光エネルギーサービス事業や「カーボン・オフセット」の取り組みなど、環境保全の推進も積極的に行っています。



これからの国際社会を生き抜く人材を育てることを目的として、勉強以外にも何か夢中になって打ち込めるものを見つけたいと「勉強プラスワン」という活動に注力し、多くの文化・スポーツ支援活動を積極的に行っています。



味の素スタジアム南側広場(アジパンダ広場)では、本イベントの開催主旨に沿って様々なブースが展開します! J:COMブース、ヒナタオエナジーブース、その他体験イベントを実施しますので、ぜひお立ち寄りください! [詳細はこちら](#)



コミュニケーションでサステナブルな社会へ

事業ブランド「XFLAG」を展開するミクシィは、ITを活用し、友人や家族といった親しい人と一緒に楽しむコミュニケーションサービスを提供し続けています。私たちはこれまでに培ってきたITやコミュニケーションの知見をもとに、サステナブルな社会づくりにも貢献してまいります。

- **次世代の育成・支援**
学生の企業訪問受け入れや学生へ独自開発のプログラミング教育アプリを使った講座の実施
- **地域への貢献**
渋谷に集う人々のアイデアを基に、オープンイノベーションによる社会的課題の解決策のデザインの協力と、公営競技ビジネスを通じた地域活性化及び地方創生
- **スポーツ振興**
プロチーム・個人選手を幅広くサポートし、さらなるスポーツ産業の盛り上げに貢献
- **安心・安全なサービス利用への取り組み**
不正行為のモニタリングや利用規約に違反した利用者やコミュニケーションが発生していないかどうか、安全にご利用いただくための監視活動や青少年の保護活動
- **社会課題への取り組み**
児童ネット被害予防施策、トラブル予防施策、学校や自治体における情報モラル講演活動
- **IT業界への貢献**
渋谷に拠点を置く当社を含めたIT企業4社でのIT人材の育成やITのモノづくりに携わる人の技術力底上げのためのカンファレンスイベントの開催

<https://mixi.co.jp/esg/>



持続可能な社会の実現を目指して

当社は、経営の根幹であるコンプライアンスの徹底と安全・品質の向上を図り、高い企業価値の創造と強靱な企業体質の確立に全力を傾注し、安心で快適な毎日のために、社会インフラを支えるパートナーとして社会の持続的発展に貢献してまいります。

- **低炭素・循環型社会の実現に向けて**
建築設備、情報通信設備、電力・エネルギーシステム分野における豊富な設計・施工経験を活かし、環境に配慮した技術・工法の開発、省エネルギーシステムの設計・施工などに取り組んでいます。
- **「日本バラスポーツ協会」への協賛**
公益財団法人日本バラスポーツ協会とオフィシャルパートナー契約を締結し、これからも地域社会の活性化と快適で感性豊かな暮らしのために、バラスポーツの未来を応援してまいります。
- **「富士山の森づくり」活動への参加**
「富士山の森づくり」活動は、富士山の豊かな森林や生態系が失われることを危惧し、自然林に近い生態系を保全するために行われているものです。当社は2017年より同活動に参加し、社員とその家族が植樹作業やシカ食害防止ネットの設置などを実施。富士山の環境に関する説明を受け、富士山に対する理解を深め、環境保護への意識を高めています。



<https://www.kanden.co.jp/>



SDGsの観点からテレワークの全社導入や子育て世代の支援制度など従業員の働きやすい環境を整備しています。また高機能チエアやWi-Fi 6ルータをはじめテレワーク環境を支援する商材の取扱量拡大に注力しております。



よく眠り、よく生きる。 持続可能な社会のために、すべての環境を配慮し、自然資源および、生産地の保護を重要課題とし、環境保全の観点からあらゆるモノづくりを行います。「健康と環境」をテーマに「西川チェーンの森」植樹活動を実施しています。



小野山興産は「~Together Toward Tomorrow~(共に明日へ)」をテーマに、不動産事業とスポーツ協賛を通じて安心で健康な社会づくりに寄与し、これからも都市人と人のより良い関係の創造を目指してまいります。